第４講　古代ギリシャ思想②・ユダヤ教

１　ヘレニズム思想（前４世紀〜前３世紀）

紀元前４世紀後半，これまでギリシャ人〔ヘレネス〕の生活基盤であったポリス〔都市国家〕は，マケドニアの**アレクサンドロス大王**による東方(とうほう)遠征などの戦乱で政治的独立を失い，崩壊していった。大王がギリシャ人を東方に移住させたことなどで東西交流が盛んになり，**ヘレニズム文化**（＝ギリシャ風文化）が地中海周辺に広がった。

※ポリスが崩壊すると，その一員としてではなく，世界の中の私(わたくし)個人（＝**世界市民・コスモポリテース**）としての生き方が，強い関心を集めた。

①エピクロス派

Ａ　**エピクロス**（前341頃〜前270年頃）を祖とする思想

Ｂ　**快楽主義**

快楽とは，身体の苦痛や魂の不安から解放された状態。この状態を**アタラクシア〔魂の平安〕**という。

Ｃ　**「隠れて生きよ」**が生活信条

アタラクシア〔魂の平安〕を実現するには，文明化された都市の政治や生活から離れ，自然の中で生きるべきと説いた。

※エピクロス派はアテネ郊外に**「エピクロスの園(その)」**という学園を開き，神々や**死後の世界を必要以上に恐れることなく**，安らかで質素な共同生活を送った。

②ストア派

A　**ゼノン**（前 335 頃～前 263 年頃）を祖とする思想

B　**禁欲主義**

人間は，理性に従うことで怒りや肉体的欲求などの**パトス〔情念〕**を抑制し，幸福になれると説いた。

※そのために，いかなる感情にも心を動揺させない**アパテイア〔不動心〕**を獲得することを理想とした。

C　**「自然に従って生きよ」**が生活信条

自然を支配するロゴス〔理法〕（＝人間の場合は理性）に従う，すなわち自然と調和して生きることをめざした。

※ゼノンが講義したアテネ郊外の公共の建物を「ストアポイキレ〔彩色柱廊（さいしきちゅうろう）〕」といい，ストア派の語源となった。

D　**世界市民主義〔コスモポリタニズム〕**

ストア派の思想家たちは，社会のあり方についても言及し，国家・民族・階級を問わず，万人がロゴス〔理性〕に従ってパトス〔情念〕を抑えて生きれば，等しく幸福になれると説いた。

※ギリシャとオリエント〔東方〕を思想的に統合する動き。

E　古代ローマへ継承

あ　**キケロ**（前 106 ～前 43 年）→政治家

い　**セネカ**（前５頃～後 65 年）→皇帝ネロの師

う　エピクテトス（55 頃～ 135 年頃）→もと奴隷

え　**マルクス＝アウレリウス**（121～180年）→五賢帝の最後

※『自省録（じせいろく）』の著者。

２　ユダヤ教

①成立の過程

A　**イスラエル人〔ヘブライ人・ユダヤ人〕**

西アジアの砂漠の遊牧民。過酷な自然状態の中で生き，紀元前 2000 年頃，現在の**パレスチナ地方〔カナーン〕**に定住したのち，一部はエジプトに移住。

※のち，エジプト新王国の圧政により奴隷状態となる。

B　**出(しゅつ)エジプト**（前 13 世紀）

預言者モーセに率いられてエジプトから脱出。イスラエル人は，脱出の成功を神**ヤハウェ〔エホバ〕**による救済と信じ，唯一絶対の**人格神**・造物主(ぞうぶつしゅ)・**裁きの神**であるヤハウェに従う**契約**を交わした民族として自らを規定した。

※ヤハウェは，諸民族の中からイスラエル人を選び，モーセを通してシナイ山上で**十戒(じっかい)**を根幹とする**律法〔トーラー〕**を与えた。そして，それを守れば見返りとして苦難から救うと約束した，とされる。

※十戒は，「あなたには，私をおいて他に神があってはならない」「あなたはいかなる像も造ってはならない」「安息日(あんそくび)を心に留め，これを聖別せよ」など。

C　**バビロン捕囚(ほしゅう)**（前６世紀前半）

イスラエル人は，故郷であるカナーンの地に国を建て，前 10 世紀にはダヴィデ王・ソロモン王父子の下で栄えた。しかし，それは経済的繁栄をもたらすと同時に貧富の差を発生させ，やがてヤハウェ信仰の純粋性が損なわれる事態もしばしば生じた。のち王国は北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂。その後，北はアッシリアに滅ぼされ，南は新バビロニアに征服された。前６世紀前半には，数回にわたりユダ王国のイスラエル人の多くが，首都バビロンに連れ去られた。

※このような困難な状況の中で人々に正しい生き方を説いたのが，イザヤ・エレミア・エゼキエルなど，神ヤハウェの言葉を伝える預言者であった。

※彼らは，神の裁きが下されることを警告する一方で，神が**メシア〔救世主〕**をこの世に送ってくれるだろう，と説いた。

②ユダヤ教の確立（紀元前６世紀〜）

A　終末観

イスラエル人〔ヘブライ人・ユダヤ人〕は，ヤハウェへの信仰を守り，律法と預言者の言葉を通じて神が自民族だけを選び関わり続けることを確信し（＝**選民思想**），救世主による救済を待望するようになった。そして，苦難は神に選ばれた民としての試練であり，**最後の審判**の日には，永遠の命を与えられ救済されると信じた。

B　**ユダヤ教**の確立

前 538 年，アケメネス朝（ペルシャ）により新バビロニアが滅ぼされると，イスラエル人はバビロンから解放された。帰国した彼らは，**エルサレム**に神殿を再興し，**『旧約聖書』**を聖典とする民族宗教を確立した。

※『旧約聖書』は，「創世記（そうせいき）」「出エジプト記」などの歴史書や預言書から成り立っている。“旧約”（＝神との旧（ふる）い契約）とは，あくまでもキリスト教側からみた呼称。

C　再度の苦難

紀元前１世紀後半，イスラエル人はローマ帝国の支配下に置かれた。その時，ユダヤ教の祭司階級（**サドカイ派**）や，律法を字句通り解釈しそれに従う生活を重んじた**パリサイ派**は，支配をただ受け入れ，貧困に苦しむ民衆を救おうとしなかった。

※そればかりか，律法を守れない人々を罪人（つみびと）として差別したので，民衆の間には，このような現状からの救済を求め，救世主への待望が大いに高まった。

第４講　倫理確認テスト

1　古代ギリシャ人たちの自称・総称を何というか？

①　ソフィスト　②　ダイモーン　③　ヘレネス　④　バルバロイ

2　紀元前４世紀後半，東方遠征をしたマケドニアの王とは？

①　ホメロス　②　ヘラクレイトス
③　ゴルギアス　④　アレクサンドロス

3　エピクロス派の生活信条とは？

①「万物は流転する〔パンタ・レイ〕」　②「人間はポリス的動物である」
③「隠れて生きよ」　④「自然に従って生きよ」

4　エピクロス派にふさわしいものを一つ選べ。

①　理想主義　②　現実主義　③　快楽主義　④　禁欲主義

5　ストア派の祖とされる思想家は？

①　タレス　②　プロタゴラス　③　プラトン　④　ゼノン

6　『自省録』を著した，ストア派のローマ皇帝とは？

①　キケロ　②　ネロ
③　エピクテトス　④　マルクス＝アウレリウス

7　ユダヤ教の聖典とは？

①　聖典なし　②　『旧約聖書』
③　『新約聖書』　④　『旧約聖書』と『新約聖書』

8　シナイ山上でヤハウェから「十戒」を受け取ったとされる預言者は？

①　セネカ　②　モーセ　③　イザヤ　④　エレミア

9　ユダヤ教の特色としてふさわしくないものを一つ選べ。

①　中庸〔メソテース〕　②　律法〔トーラー〕の重視

③　選民思想　④　終末観

10　紀元前１世紀後半，イスラエル人〔パレスチナ人・ユダヤ人〕を支配下においた国とは？

①　マケドニア　②　エジプト新王国

③　新バビロニア　④　ローマ帝国

解答

1　③	2　④	3　③	4　③	5　④
6　④	7　②	8　②	9　①	10　④